

長 畑 遺 跡 II

福岡県飯塚市潤野所在遺跡の調査

飯塚市文化財調査報告書 第62集

2025

飯塚市教育委員会

序

福岡県の中央部、筑豊地域の中心都市である飯塚市は豊かな水と緑に囲まれ、古来より生活環境に恵まれてきました。こうした環境のもと、立岩遺跡に代表されるように市内には先人たちの残した貴重な足跡である文化財が数多く存在しています。

しかし、近年の都市化に伴う開発により、地下に眠る埋蔵文化財の一部が失われつつあることもまた事実です。飯塚市教育委員会では、開発に伴いやむを得ず失われていく埋蔵文化財について事前に発掘調査を実施し、記録の保存に努めています。

本書は宅地開発に伴い令和6年度に発掘調査を実施した長畠遺跡の調査報告書です。今回の発掘調査では、主に古墳時代と中世の集落が確認されました。以前の調査においても古墳時代の竪穴住居跡が検出されており、当遺跡の古墳時代集落の様相が見えてくるものとみられます。また、中世の文献にもある潤野地域の状況が今回の調査で少しではありますが明らかになったものと考えられます。今後、本書が地域の歴史研究や教育、文化財保護思想の理解と普及に多少なりとも貢献できれば幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査・報告書の作成にあたり、多大なご協力をいただきました方々に厚く感謝いたします。

令和7年3月31日

飯塚市教育委員会
教育長 桑原 昭佳

例　　言

1. 本書は、令和 6 年度に宅地造成に伴い発掘調査を実施した福岡県飯塚市潤野所在の長畠遺跡の調査報告書である。なお、長畠遺跡は以前において平成 3 年に運動場拡幅工事に伴う調査（1 次）、平成 19 年に潤野調節池建設事業に伴う調査（福岡県教育委員会実施・2 次）、令和 5~6 年に進入路新設に伴う調査（3 次）を行っており、今回の調査が第 4 次調査となる。
2. 発掘調査及び報告書作成は、株式会社よかタウンの委託を受け、飯塚市教育委員会文化課が実施した。
3. 本書使用の遺構実測図は、八木健一郎・久保田あかね・前川陽子が作成した。本書使用の遺物実測図は、大庭淑佳・八木が作成した。
4. 遺構・遺物の製図は、大庭がおこなった。
5. 本書使用の方位は座標北である。
6. 遺構の略号として用いたものは SC（竪穴住居跡）、SK（土坑）、SD（溝）、SP（柱穴）である。
7. 本書の執筆・編集は櫛山範一の補助を受け、八木がおこなった。
8. 本書に関わる図面、写真、遺物などの資料は、飯塚市教育委員会で保管している。

本文目次

| | |
|---------------|---|
| I. はじめに | 1 |
| II. 地理的・歴史的環境 | 2 |
| III. 調査の記録 | 4 |
| 1. 方法と層位 | 4 |
| 2. 遺構と遺物 | 4 |
| IV. おわりに | 8 |

図版目次

| | | | |
|------|---------------|---------------|---------------|
| 図版 1 | 1. 遠景（南から） | 2. 全景（西から） | 3. 全景（南東から） |
| 図版 2 | 1. SC001（西から） | 2. SK001（西から） | 3. SD002（西から） |
| 図版 3 | 出土遺物 | | |

挿図目次

| | | |
|-------|--------------------|---|
| 第 1 図 | 周辺遺跡分布図（1/25,000） | 2 |
| 第 2 図 | 長畠遺跡周辺地形図（1/5,000） | 3 |
| 第 3 図 | 長畠遺跡遺構配置図（1/100） | 4 |
| 第 4 図 | 遺構実測図（1/60） | 5 |
| 第 5 図 | 出土遺物実測図（1/3） | 6 |
| 第 6 図 | 潤野地区周辺地形図（1/7,000） | 8 |

I. はじめに

令和 6 年 11 月、株式会社よかタウンより飯塚市潤野 238 番 1 において宅地造成の計画があることから、文化財に係る事前の照会文書が飯塚市教育委員会文化課文化財保護推進室（以下、市文化課）に提出された。事業予定地は周知の文化財包蔵地「長畑遺跡」の範囲内であることから、市文化課としては事前の確認調査が必要であると回答した。

令和 6 年 12 月、市文化課が確認調査を実施したところ、地表面下約 0.15～0.45m で遺構（柱穴群）や遺物を含む包含層が確認された。この調査の結果をもって、市文化課と株式会社よかタウンで協議をおこない、事業計画により遺構が確認された中でも掘削が予定されている範囲のみを市文化課が発掘調査を実施することで決定した。重機による表土剥ぎを令和 6 年 12 月 26 日から着手し、令和 7 年 1 月 22 日に撤収など全ての作業を終了した。

令和 6 年度 長畑遺跡の発掘調査に係る関係者は下記のとおりである。

〔飯塚市教育委員会文化課〕

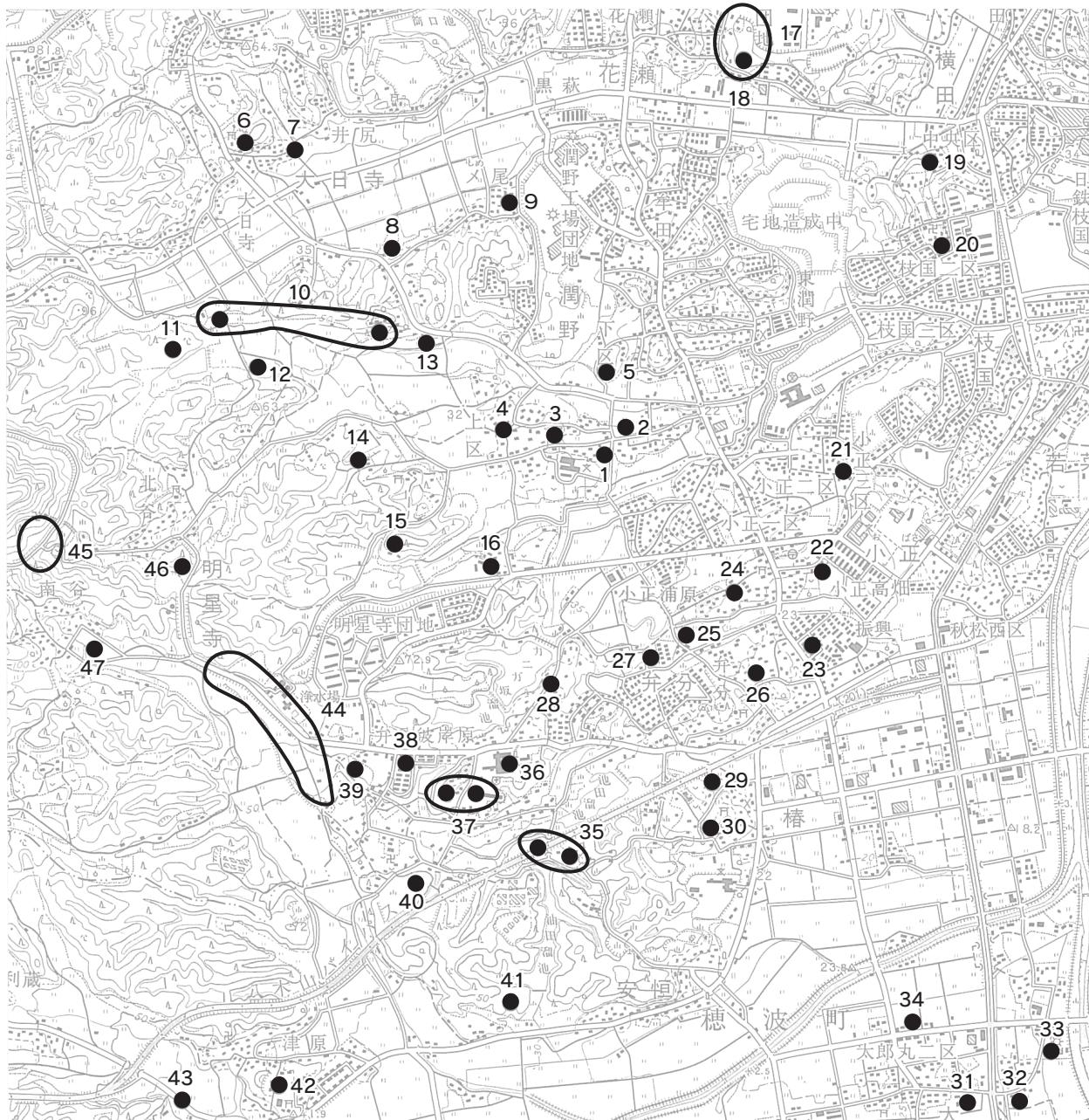
| | |
|-----------|-------------------|
| 教 育 長 | 桑原 昭佳 |
| 教 育 部 長 | 山田 哲史 |
| 文 化 課 長 | 瀬尾 善忠 |
| 文化財保護推進室長 | 渡邊 淳 |
| 文化財保護担当 | 八木 健一郎（調査・整理報告担当） |

II. 地理的・歴史的環境

平成 18 年 3 月 26 日に、飯塚市、嘉穂郡穂波町・筑穂町・庄内町・穎田町の 1 市 4 町が合併して誕生した新「飯塚市」は、人口約 13 万人、面積約 214 km²を誇る筑豊地方最大の都市である。北は直方市・鞍手郡小竹町・宮若市、東は田川市・田川郡福智町・田川郡糸田町、南は嘉麻市・嘉穂郡桂川町・筑紫野市・朝倉郡筑前町、西は糟屋郡篠栗町・糟屋郡須恵町・糟屋郡宇美町と接している。

飯塚市が位置している嘉穂盆地は、西を三郡山地、南を古処山地、東を金国・戸谷ヶ岳山地に囲まれており、盆地内には古処山地に水源を発する嘉麻川と三郡山地に水源を発する穂波川が合流した遠賀川が北流している。本地域の地質は、古生代の呼野層群・三郡變成岩、中生代の花崗岩類が中央部や東西の丘陵地帯の基盤となる。これらのうち、呼野層群は北九州市門司区の企救半島から三郡山地にかけて分布し、市域北西の笠置山周辺部にも見られる。大きく上層・中層・下層に分かれ、上層は平尾台石灰岩、中層には輝緑凝灰岩や砂岩、チャート、粘板岩が、下層には凝灰岩質粘板岩、緑色凝灰岩質粘板岩がある。新生代の古第三紀には夾炭層である直方層群が盆地中央部に堆積するが、この分布域が近代に国内石炭生産の半数を産出した筑豊炭田である。

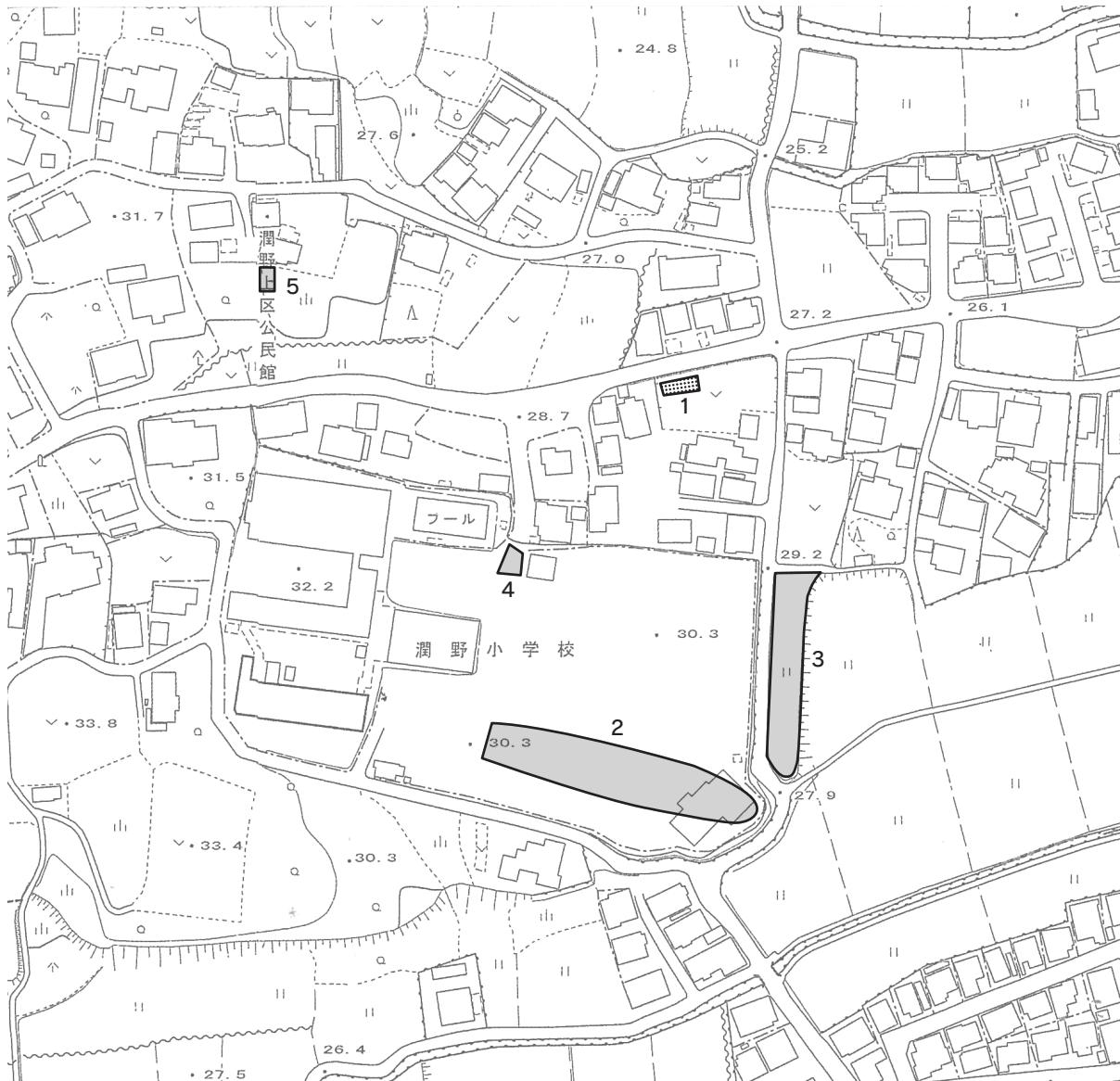
今回報告する長畑遺跡が所在する嘉穂盆地西部は、穂波川の支流内住川の北に位置する龍王山をはじめとする三郡山地から流れ出る小河川によって低丘陵がいくつかのまとまりによって分断されており、その丘陵上に立地する。縄文時代の遺跡は遺跡数が希薄である。弥生時代になると遺跡数



1. 長畠遺跡 2. 三月田遺跡 3. 大城戸遺跡 4. 潤野本村遺跡 5. 赤坂遺跡 6. 大日寺遺跡 7. 伊土用遺跡 8. 郷ノ原遺跡 9. メ尾遺跡 10. 郷ノ原1・2号墳 11. 篠振遺跡 12. 千人塚 13. 嶋廻遺跡 14. 囲遺跡 15. 野毛尾遺跡 16. 向野遺跡 17. 後牟田横穴群 18. 平原古墳 19. 長浦遺跡 20. 山の神古墳 21. 小正京塚遺跡 22. 日焼遺跡 23. 出口遺跡 24. 東光遺跡 25. 鹿子田遺跡 26. 堂畠遺跡 27. 小正西古墳 28. かにが坂遺跡 29. 天神森遺跡 30. 椿サコ遺跡 31. 畑田遺跡 32. 高松遺跡 33. 川西遺跡 34. 鳥ノ巣遺跡 35. スダレ遺跡 36. 労災病院遺跡 37. 日上遺跡 38. 彼岸原遺跡 39. 上の原遺跡 40. 大門遺跡 41. 油田遺跡 42. 宮山古城跡 43. 幸町遺跡 44. 上ノ原遺跡 45. 明星寺跡 46. 北屋敷遺跡 47. 屋敷遺跡

第1図 周辺遺跡分布図(1/25,000)

が多くなる。赤坂遺跡や野毛尾遺跡、上の原遺跡、大門遺跡などでは前期の貯蔵穴が検出されている。中期になると彼岸原遺跡や子持ち壺・石剣切先嵌入人骨の出土で有名なスダレ遺跡など多くの遺跡が所在している。また、甕棺墓が嶋廻遺跡や大日寺遺跡（三連式）、木棺墓が郷ノ原遺跡や日上遺跡で検出している。古墳時代に入ると集落や古墳が築造される。長畠遺跡では以前の調査で前期の堅穴住居跡を検出している。メ尾遺跡も中～後期の集落である。また、赤坂1号墳（赤坂遺跡）は径21mの円墳で割竹型木棺を納めた粘土槨を内部主体とする。5世紀末頃に築造された山の神古

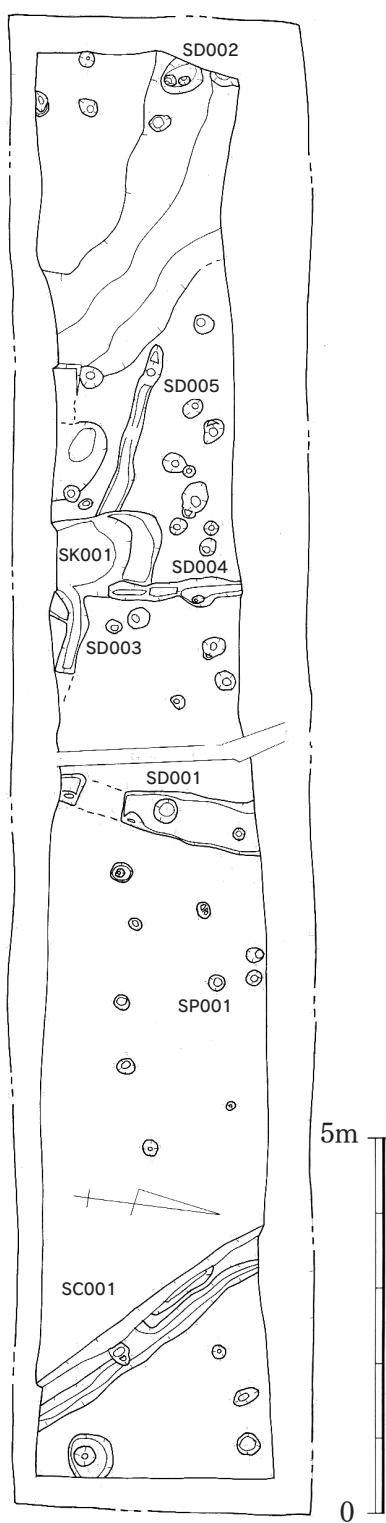


1. 本調査区(4次) 2. 1次調査区(平成3年) 3. 2次調査区(平成19年) 4. 3次調査区(令和6年) 5. 大城戸調査地(令和元年)

第2図 長畠遺跡周辺地形図 (1/2,500)

墳は全長 85m を測る前方後円墳である。単室の横穴式石室を主体部とし、盤龍鏡や画文帶神獸鏡、衝角付冑、挂甲、f 字形鏡板や剣菱形杏葉など豊富な副葬品を有する。山の神古墳の南西 2 km に小正西古墳が築造される。山の神古墳とほぼ同時期と考えられる。径 30m の円墳で同一墳丘に 2 基の横穴式石室を構築している。後期になると古墳の数が増加し、横穴墓も築造される。平原古墳やその周囲に後牟田横穴墓群、郷ノ原 1・2 号墳があるが嘉穂盆地西部においては古墳や横穴墓が少ない。古代においては豊前地方と大宰府を結ぶ官道が整備され、これに伴う駅屋の一つである「伏見駅」が高田地区に比定されている。また、高田地区の南約 1.5km には新羅系古瓦を出土することで有名な大分廃寺が所在している。中世になると高田庄や椿庄が荘園として発達する。高田庄は 10 世紀中頃に成立した觀世音寺領の荘園で、椿庄は宇佐八幡宮の神領が荘園化したものである。また、龍王山から東側へ派生する丘陵に平安時代の創建と推定される明星寺跡が所在する。

III. 調査の記録



第3図 長畑遺跡遺構配置図 (1/100)

1. 方法と層位

長畑遺跡は宅地造成予定地において切土される部分を対象とした発掘調査で、対象面積 1,013 m² のうち試掘調査で遺構が確認された西半分の約 80 m²を調査対象に開始した。まずバックホーによる表土等除去作業を行い、地表面下約 0.4~0.6m の深さで基盤層(黄灰褐色砂質土)が検出された。その後人力による遺構検出作業を基盤層上面にて開始した。調査区には地形に合わせて測量杭を設定した。この杭を基準に遺構の割付をおこない、20 分の 1・100 分の 1 の図面を作成した。遺構の登録については略記号を使用した(例言参照)。

調査の結果として、遺構としては竪穴住居跡 1 棟、土坑 1 基、溝 5 条、ピット等が確認された。また、遺物としては土師器、須恵器、磁器、石鍋が 2 箱分出土した。

2. 遺構と遺物

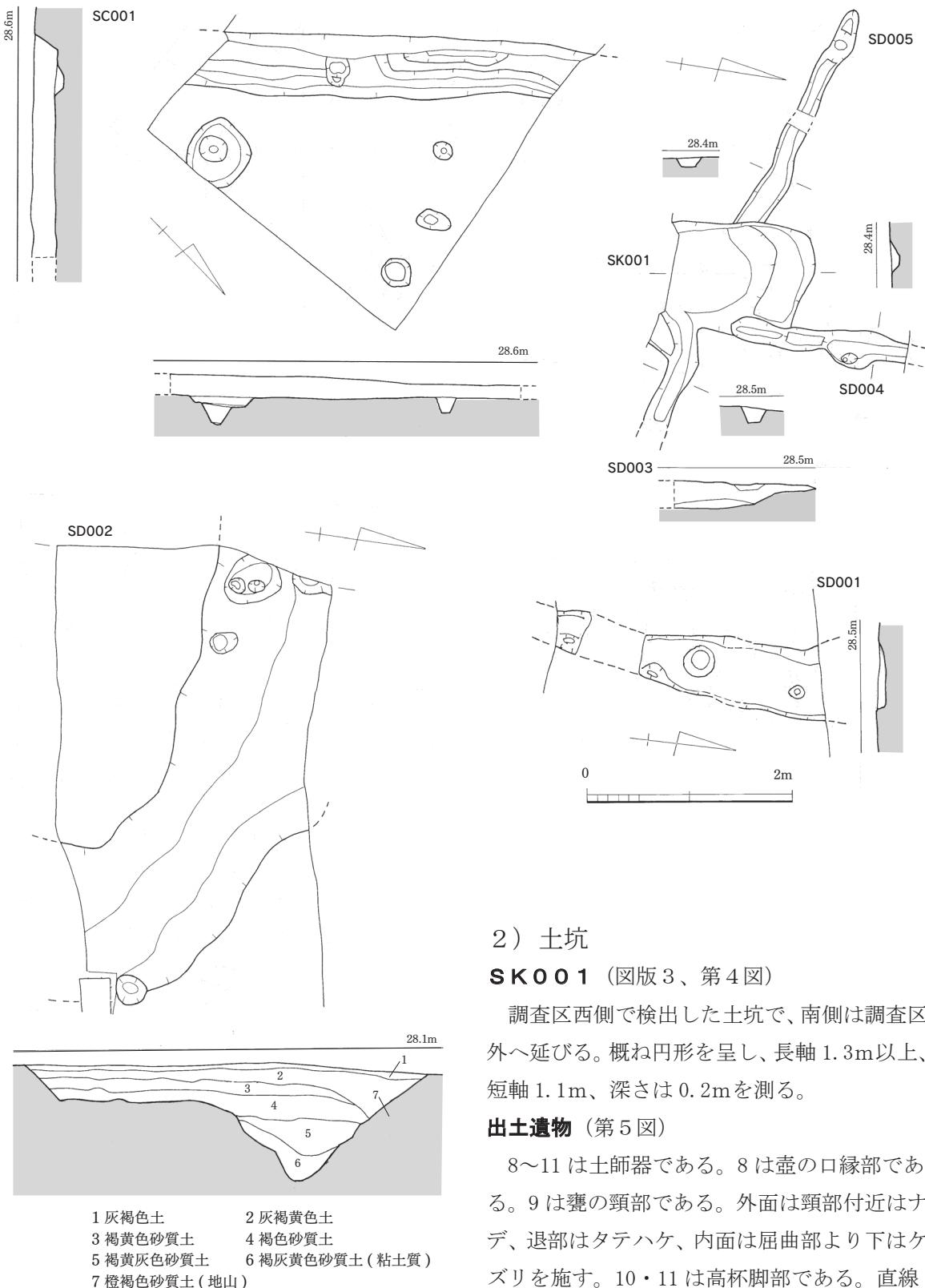
1) 住居跡

SC001 (図版 2・3、第 4 図)

調査区東端で検出した住居跡である。西壁の一部が確認できており、それ以外は調査区外に延びている。西壁は 3.5m 以上、深さは 0.2m、壁溝は深さ 0.05m を測る。主柱穴は 4 本を想定でき、深さ 0.15~0.25m を測る

出土遺物 (図版 5、第 5 図)

1~4 は須恵器である。1 は杯身で推定口径 11.0 cm を測る。2・3 は高杯杯部である。2 は無蓋、3 は有蓋の杯部とみられる。4 は杯蓋である。5・6 は土師器である。5 は甕口縁部、6 は小型手捏土器の鉢である。口径 4.1 cm、器高約 2 cm を測る。7 は滑石製石鍋である。鍔表面は欠損している。二次利用のため、口縁部の断面口と欠損した鍔の表面に、それぞれ刻目を有している。

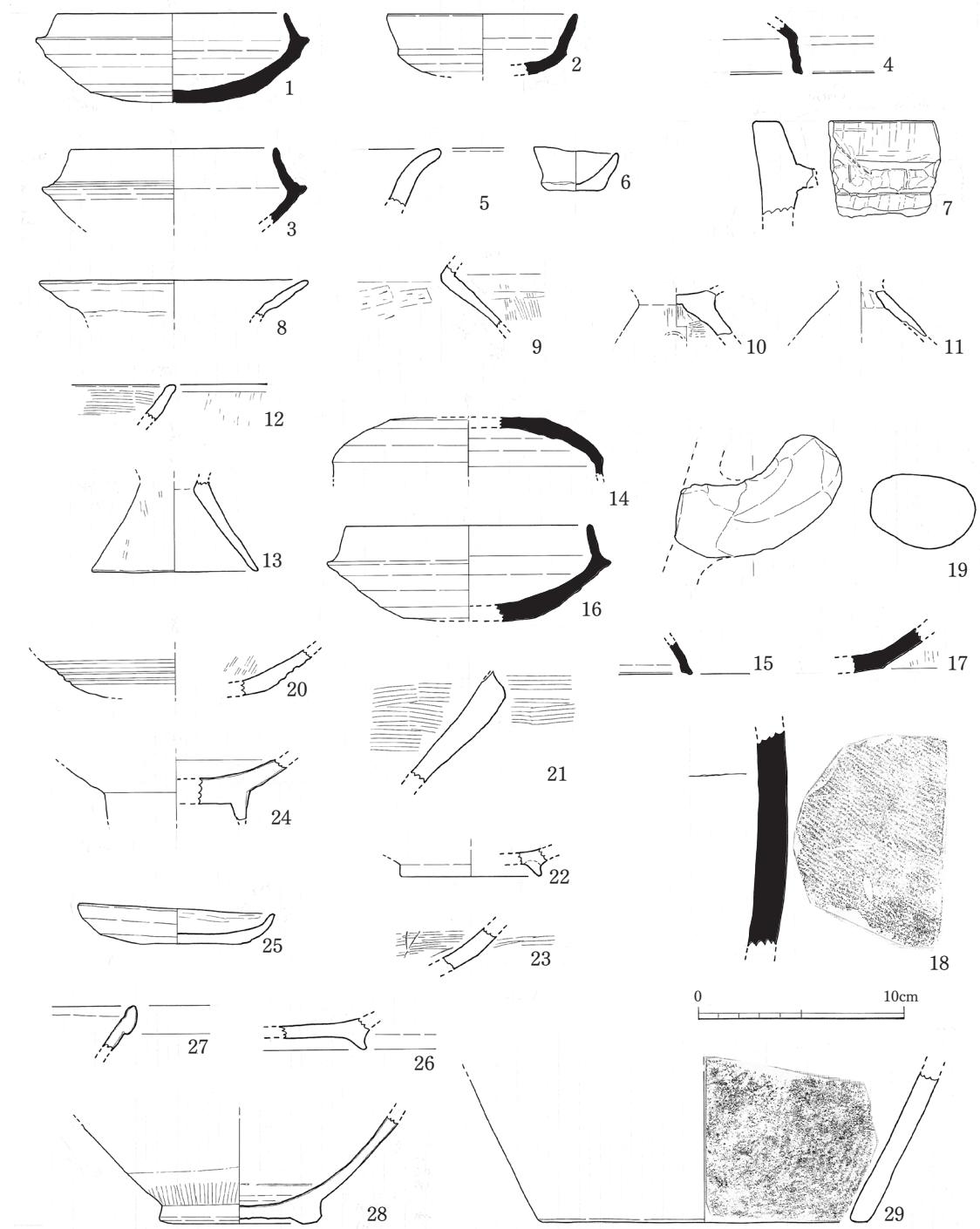


第4図 遺構実測図 (1/60)

3) 溝

SD001 (図版4、第4図)

調査区中央で検出した溝で、北側と南側は調査区外へ延びる。幅0.5~0.7m、深さは0.05~0.1mを測る。



第5図 出土遺物実測図 (1/3)

出土遺物 (第5図)

12・13は土師器である。12は甕口縁部、13は高杯脚部である。短く直線的に開く。

S D 0 0 2 (図版4、第4図)

調査区西端で検出した溝で北西側と南側は調査区外へ延びる。幅1.2~1.4m、深さは0.6mを測る。

出土遺物 (第5図)

14~18は須恵器である。14・15は杯蓋である。14は天井部から口縁端部を欠損する。16・17は杯身である。16は推定口径11.7cmを測る。17は底部付近である。18は甕の体部で外面ハケ、内面ナデを施す。19は土師器甕把手である。20は瓦器の壺であろうか。体部外面にロクロ目が残る。内面はヘラミガキで平滑に仕上げている。21は瓦質土器の鉢で、口縁部は玉縁状を呈する。体部内面と口縁部外面にヨコ方向のハケ目が施される。外面は明灰褐色、内面は灰白色を呈する。22・23は瓦器壺である。22は底部に、断面三角形状の低い貼付け高台を有する。焼成が甘いため、外面は明橙褐色を呈する。23は底部付近の破片である。体部内外面にヘラミガキが施される。焼成は良好で、内外面暗灰色を呈する。24は白磁碗V-4類で、高台端部は欠損している。内面に短い櫛目文が施されている。

S D 0 0 3 (図版3、第4図)

調査区西側で検出し、SK001から東へ延びる溝である。東側は削平を受けている。幅0.2m、深さは0.15mを測る。

S D 0 0 4 (図版3、第4図)

調査区西側で検出し、SK001から北へ延びる溝である。北側は調査区外へ延びる。幅0.2m、深さは0.05~0.1mを測る。

S D 0 0 5 (図版3、第4図)

調査区西側で検出し、SK001から西へ延びる溝である。長さ2.3m、幅0.2m、深さは0.05~0.1mを測る。

4) その他の遺物 (図版5、第5図)

25は瓦器皿である。内面のみヘラミガキが施され、体部外面はヨコナデである。外底部には僅かに糸切り痕が残り、板状圧痕が見られる。口縁部の内外面のみベルト状に暗灰色で、他は灰色を呈する。推定口径9.4cmを測る。SP001出土。26は瓦器壺である。底部に、断面三角形状の低い貼付け高台を有する。27・28は白磁碗IV類である。27の胎土は黄味を帯びており粗い。28は底部内面に沈線を有し、高台内部の削り出しが浅い。29は土師器甕底部である。内面に当て具痕が残る。

IV. おわりに

今回の調査では、古墳時代と中世の集落が確認された。古墳時代の集落は以前の長畠遺跡の調査でも確認された。平成3年・平成19年の調査では古墳時代前期の堅穴住居が検出されている。なお、

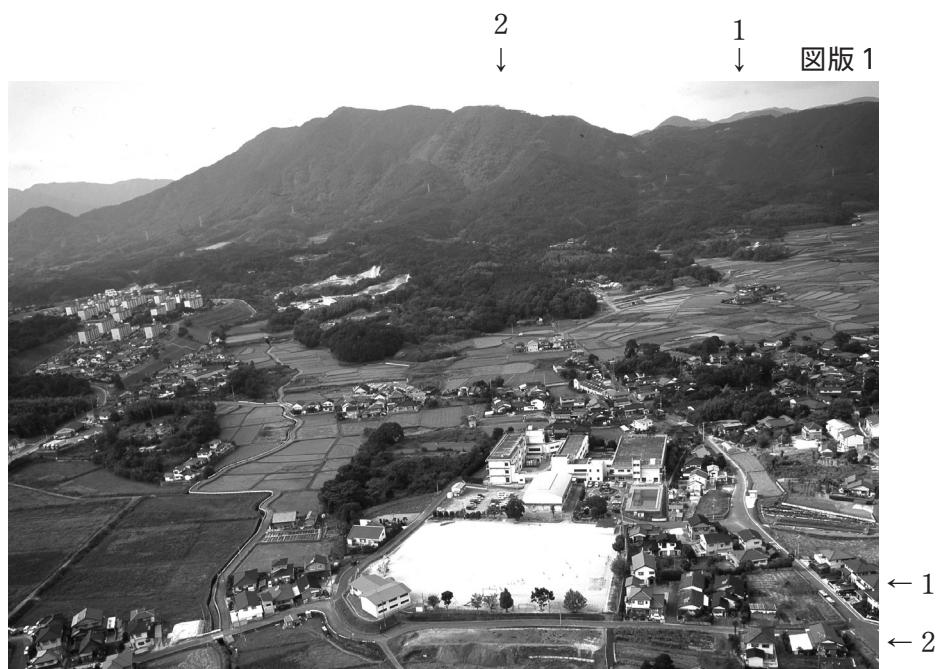
両調査では弥生時代の土坑が検出されている。今回の調査では、堅穴住居跡では古墳時代後期とみられることから、当遺跡では弥生時代前期から古墳時代後期まで継続して集落が営まれていたものとみられる。中世においては SD002 から白磁碗V-4類や瓦器塊、瓦質土器鉢が出土しており、12世紀半ばとみられる。また、Pit や調査区内から瓦器皿、白磁碗IV類が出土しており、建物も当該期とみられることから、集落の様相が一部ではあるが明らかとなった。隣接する大城戸遺跡では柱穴群が検出され、瓦器、磁器等が出土している。当遺跡の所在する潤野は平安時代末期 12世紀半ば頃の嘉穂地方における宇佐宮領の存在形態およびその性格をみることができる『宇佐大鏡』において、粥田経頼の頃には鞍手・穂波の 2 郡にわたって勢力を築き、子である粥田経遠は粥田郷（旧宮田町域一帯）の 12 か村を所有していたが、さらに山を越えた穂波郡の合屋・潤野・平恒の三ヶ村を 1156（保元元）年、皇室御願寺で近衛天皇の延勝寺へ寄進し、これを庄園として立券（手続）にかこつけて、宇佐八幡宮の宮吉名田（椿新庄といった）をとりこんだとの記載がある。出土した 12 世紀半ばの遺物により、当時の潤野地区の状況がわずかではあるが垣間見ることができた。今後、当地域の調査事例が増加し、当地域の中世の様相が次第に明らかにされることを期待したい。

【参考文献】

- 川添昭二編 1968 『嘉穂地方史』 古代中世編 嘉穂地方史編纂委員会
NPO 法人遠賀川流域住民の会 2006 『もっと知りたい遠賀川』
飯塚市教育委員会 1994 『長畑遺跡』 飯塚市文化財調査報告書 第18集
福岡県教育委員会 2009 『長畑遺跡』 福岡県文化財調査報告書 第223集



第6図 潤野地区周辺地形図 (1/7,000)



図版2



1. 全景（東から）



2. 全景（西から）



3. SC001（東から）

図版3



1 .SC001 (北から)

2 .SK001、SD003～005
(南から)

3 .SK001 (南から)

図版4



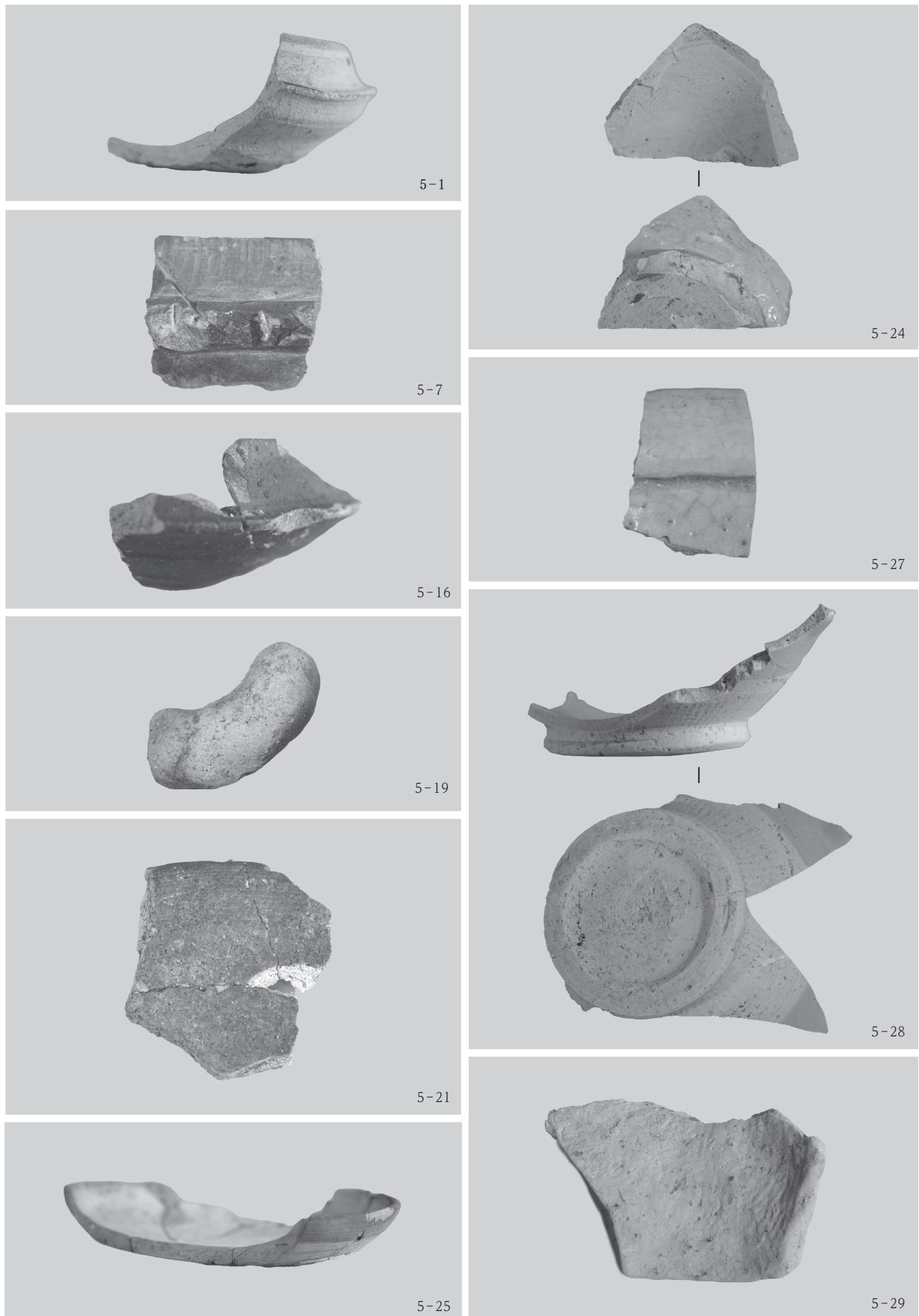
1 .SD001 (北から)



2 .SD002 (東から)



3 .SD002 (北から)



出土遺物

報告書抄録

| | | | | | | | |
|-----------------|---|-------|-------------------|--------------------|-------------------------|------|------|
| ふりがな | ながはたいせき | | | | | | |
| 書名 | 長畠遺跡 | | | | | | |
| 副書名 | | | | | | | |
| 巻次 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 飯塚市文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 第62集 | | | | | | |
| 編著者名 | 八木健一郎 | | | | | | |
| 編集機関 | 飯塚市教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩5番5号 TEL 0948-22-5500 | | | | | | |
| 発行年月日 | 2025年3月31日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所 在 地 | コード | 北緯 | 東經 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
| ながはたいせき 長畠遺跡 | ふくおかんいいづかしゅうの 福岡県飯塚市潤野 | 40205 | 33° 37' 37" | 130° 39' 35" | 2024.12.26 2025.1.22 | | 宅地造成 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 長畠遺跡 | 集落跡・散布地 | 古墳/中世 | 堅穴住居跡、土坑、溝 | 土師器、須恵器、陶磁器、石製品 | | | |
| 要約 | 長畠遺跡は穂波川支流である明星寺川と姿川に挟まれた標高30m前後の丘陵上に立地し、遺跡の標高は28~29mを測る。今回の調査は遺跡範囲の北東端部に該当し、調査原因は宅地造成に伴うものである。表土下約0.15~0.45mで遺構検出面が検出され、堅穴住居跡、土坑、溝跡等が確認された。遺物としては、土師器、須恵器、陶磁器、石製品等が出土した。中世では出土遺物から12世紀半ばとみられる溝や柱穴が検出されており、当時期の潤野地区の状況を一部ではあるが把握することができた。 | | | | | | |

長畠遺跡 II

飯塚市文化財調査報告書

第62集

2025年(令和7年)3月31日

発行 飯塚市教育委員会

〒820-8501 福岡県飯塚市新立岩5番5
電話 (0948) 22-5500

印刷 フジキ印刷株式会社

〒820-0053 福岡県飯塚市伊岐須490-15
電話 (0948) 29-3177

